

## 滋賀県内のダム湖におけるコクチバスの食性

横山文彬・岩見洸・沢田裕一  
(滋賀県立大学大学院 環境科学研究科)

【緒言】コクチバス *Micropterus dolomieu* はスズキ目サンフィッシュ科に属する北米原産の淡水魚である。本種はオオクチバス *M. salmoides* と同様に強い肉食性を示し、高い繁殖能力を有することから、在来生物に多大な影響を及ぼすとして本邦では 2005 年に特定外来生物に指定された。しかし、本邦におけるコクチバスの生態に関する知見はオオクチバスと比較して乏しい状態にある。そのような状況の中、コクチバスは 1990 年代後半以降オオクチバスの後を追う形で全国に分布域を急速に拡大している。以上のような現状を踏まえ、既にオオクチバスが侵入している水域、さらにはオオクチバスが侵入していない水域にコクチバスが分布域を拡大した場合どのような食性を示すのか明らかにするため調査を行った。

【方法】調査は 2010 年の 4 月～10 月に滋賀県犬上郡多賀町に位置する犬上ダム、2011 年の 4 月～10 月に滋賀県甲賀市土山町に位置する野洲川ダムで週一回の頻度で行った。犬上ダムでは 2007 年に、野洲川ダムでは 2010 年にコクチバスの生息が確認された。犬上ダムにはオオクチバスに加えてブルーギルも生息している一方、野洲川ダムではオオクチバス、ブルーギル共に生息は確認されていない。対象魚の捕獲には、刺網、タモ網、ヤス、ルアー釣り等を用いた。捕獲した対象魚はその場で腹腔内に 10 %ホルマリンを注射し固定した。固定した対象魚は研究室に持ち帰り外部形態等を測定した後、胃を摘出した。その後、胃を切開し、出現した餌生物を同定、測定した。餌生物は遊泳魚類、底生魚類、甲殻類、水生昆虫、陸生昆虫の 5 つのカテゴリに大分した。指標には餌料重要度指数(IRI)および餌料重要度百分率(%IRI)を用いた。

【結果】犬上ダムではオオクチバス 250 個体(SL±SD : 177.6 ± 64.8 mm)、コクチバス 52 個体(135.7 ± 43.0 mm)が捕獲され、野洲川ダムではコクチバス 98 個体(199.2 ± 47.5 mm)が捕獲された。犬上ダムにおいて両種の魚類に対する餌料重要度はほぼ同程度であったが、オオクチバスでは甲殻類が、コクチバスでは陸生昆虫がそれぞれ重要な餌資源となっていた。一方、野洲川ダムにおいてコクチバスは陸生昆虫に強く依存していた。